

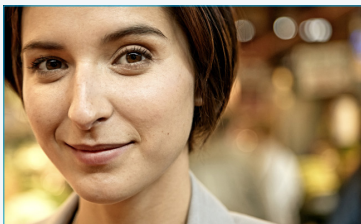


## Barilla 社では、自社食品のサプライチェーンに関する情報を消費者に提供

Barilla 社は、消費者に対して自社の食品との接点を提供しています。さらに、以下も実現しています。



サプライチェーン全体から情報サイロを排除



自社製食品の透明性の向上

現在の消費者は、製品の販売元に対して、透明性の高いコミュニケーションと社会的責任を求めています。「Barilla」ブランドのパスタやソースのメーカーである Barilla Group は、Internet of Everything (IoE) を活用することで、自社食品の生産チェーン全体を消費者が追跡できるようにしています。追跡範囲は食材の育成ステージから、店舗の棚に届く最終段階にまでに及んでいます。

Barilla 社は、シスコ、Penelope S.p.A、NTT データと連携して、Safety for Food (S4F、食品安全性) と呼ばれる新たなテクノロジープラットフォームを導入しました。このプラットフォームでは ValueGo® ソフトウェアを活用しており、限定版 Farfalle パスタやトマト/バジルソースのパッケージの裏に付いた QR コードをスキャンするだけで、消費者は Web サイトに簡単にアクセスできます。アクセス先のサイトでは、サプライチェーンの主要ステージをすべて分析することで得られた情報が、製造バッチごとに記載されています。シスコでは、非政府組織、技術パートナー、食品サプライチェーン

の専門家と連携して Safety for Food イニシアチブを構築し、消費者が農産品チェーン全体のデータにアクセスできるよう取り組んでいます。Barilla 社のような革新的な食品企業は、データと分析を活用してサプライチェーン全体における情報サイロを取り除き、消費者に対して自社の食品情報の透明性を高める活動をリードしています。

また統合追跡システムは、食品サプライチェーンにおける偽装防止にも役立っています。消費者に対する透明性が高まり、食品のトレーサビリティが確保されています。同社では、こうした革新的なイニシアチブを通じて、透明性を高めてサプライチェーンの安全性を向上させ、自社の食品と消費者の接点を拡大しようと努めています。Barilla 社のような革新的な企業は、人、場所、プロセス、データ、モノをつなぐ新たなデジタルテクノロジーを活用することで、複雑な産業プロセスを管理し、消費者の生活を向上させています。限定版の Barilla Farfalle パスタとトマト/バジルソースは、来年からイタリア全国で発売される予定です。

「当社では、こうした革新的なイニシアチブを通じて、透明性を高めてサプライチェーンの安全性を向上させるだけでなく、自社の食品と消費者との接点を拡大できるよう努めています。」

Barilla G.e R. Fratelli 品質・食品安全性・規制担当グローバル ディレクター  
Giorgio Beltrami 氏